



VITA PLUS  
若者・対話・地域



2006年1月26日、佐賀県立牛津高等学校において、西田みづ恵（総合政策学部3年）、谷口諭（総合政策学部3年）が自ら開発した教材を活用して、起業家精神を育むためのケースメソッド授業を行いました。この授業は、経済産業省「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト 平成17年度モデル事業」に採択された、NPO法人鳳雛塾が推進する「ケースメソッドを導入した一貫型ビジネス人材育成キャリア教育事業（佐賀モデル）」の一環として実施されたものです。

VITA+では、NPO法人鳳雛塾から委託をうけて、起業家精神育成を目的とした、高校生のためのケース教材、基礎的な経営学のテキスト開発、カリキュラム設計などを行っています。そして、人材育成を通じた地域経済活性化を実現するための具体的方策についてのアクションリサーチに取り組んでいます。ビジネススクールで利用されているケース教材を高校生に適用することは全国的にも初めての試みです。そのため、内容、議論のポイント、授業方法など試行錯誤しながら研究を行っています。

今回の授業では、服飾デザイン科2年生の37名に対し、独自に開発した『佐賀市の商店街』のケース教材を活用して、まず、西田が商店街の現状を説明し、商店街の役割や今後の展開などについて全員で議論を行いました。次に、4~5人ずつのグループに分かれて商店街活性化プランを検討してもらい、それぞれのアイデアを模造紙に書いて発表してもらいました。そして、ゲストとして参加してもらった佐賀県、佐賀市の職員の方々にそれぞれ講評をいただきました。その後、谷口が、マーケティングの理論を講義し、文化祭での模擬店の事例をもとに、客層を考慮した商品開発、販売戦略が重要であることを説明しました。

高校生からは、「楽しかった」、「是非、またこのような授業をやってほしい」という意見が寄せられました。また先生方、ゲストの方々からは、「生徒が熱心に参加して非常によかった」、「地域に関心を持ってくれるきっかけになった」、「このような授業は継続して実施すべきだ」と高く評価をいただきました。大学生が講師を務め、高校生にとって身近な地域の問題を取り上げたことで、参加しやすい授業になったと思います。また、自治体の方々にも参加いただくことで、高校と地域の連携の可能性も見出せました。今後、ケースメソッド授業の実践をさらに推進し、高校生にふさわしいケース教材のあり方、映像教材の開発、授業のカリキュラムなどを探求していきます。さらに、商店街での販売実習も取り入れ、地域の問題解決につながる研究を目指したいと思います。（村上聡）